

# 避難民の支援チーム

## 由布市、ウクライナ対応

由布市は22日、ロシアの軍事侵攻を受けているウクライナからの避難民などを支援する対策チームを立ち上げると発表した。市内の社会福祉法人「愛泉会(土師壽三理事長)と協力して、住居の提供や生活支援などに取り組むとしている。

市総務課、福祉課、学校教育課、商工観光課などの職員らが連携して業務にあたる。当面の支援として、避難者が希望した場合に公営住宅7戸を提供。国の支援情報の提供や困りごと相談などに対応する。15日には出入国在留管理庁に避難民受け入れの意思を伝えた。現在、由布市内にはウ

クライナ出身の居住者はおらず、受け入れの希望確認はこれからという。

また、愛泉会は法人所有施設の空き室16室を提供し、最大32人を受け入れる。これから居住環境の整備、ウクライナ語通訳の手配などに取り組む。市民からの寄付も募る予定だ。

記者会見した相馬尊重市長は「人道的な見地からウクライナ避難民の受け入れに協力する。希望者がいればきめ細かな支援に取り組

む」。また、土師理事長は「東日本大震災で台湾から受けた心温まる支援への感謝の念を、いまはウクライナに振り向ける時だ。戦禍にあえぐ避難民に手を差し伸べたい」と話した。

(白石昌幸)



ウクライナ避難民支援に取り組む相馬尊重市長(右)と土師壽三理事長(右から2人目)ら